

海外アカデミック・ディスカッション	
教育研究用貴重書挿絵データベース開発のための 議論、情報収集、国際学会発表訓練	
馬場 幸栄	
比較社会文化学専攻	
期間	2010 年 7 月 5 日～2010 年 7 月 16 日
場所	イングランド
施設	ロンドン大学キングス校

内容報告

1. 挿絵研究とデータベース

豊かな歴史的情報を内包する貴重書挿絵の研究と教育は、多くの学問分野において文字情報の研究・教育と同じくらい重要な位置を占めている。そのため、パソコン、インターネット、デジタル複写技術が爆発的に普及し貴重書の画像データベース制作が可能となった 90 年代以降、挿絵研究の成果を保存・更新・整理・解析・公開するためツールとして多数の貴重書挿絵データベースが開発されてきた(注 1)。

だが、日本ではまだまだ貴重書挿絵データベース開発について議論を交わし、情報を収集し、国際的な発表を行う場が十分に整っていない。主な議論・情報収集・発表の場は「人文科学とコンピュータ研究」とアート・ドキュメンテーション学会に限定されがちであるし、人文社会系研究のためのデジタル技術とその応用を専門に扱うデジタル・ヒューマニティーズの国際学会はいまだ日本で開催されていない(注 2)。

こうした状況を打開して貴重書挿絵データベース開発の議論・情報交換・国際発表を活性化するにはどうすべきか。国際的なデジタル・ヒューマニティーズ研究拠点のひとつであるロンドン大学キングス校の Centre for Computing in the Humanities (略称 CCH) と同分野における世界最大の学会のひとつである Digital Humanities 学会 2010 年度大会 (略称 DH2010) を訪問し、そのヒントを探った(注 3)。

2. 常設のデジタル・ヒューマニティーズ教育研究機関—ロンドン大学キングス校 CCH

CCH は世界で最初にデジタル・ヒューマニティーズの PhD 課程を設けた常設の研究所であり、デジタル・ヒューマニティーズ、デジタル文化・技術、デジタル・アセット・マネジメントの三分野について MA 課程も設置している。約 40 名の教授やリサーチ・フェローらが CCH での教育と研究を担っており、貴重書挿絵データベースとしての応用が期待されて

いるアノテーション・ソフト『Pliny: A Note Manager』の開発者ジョン・ブラッドリー氏もここに所属している(注 4)。CCH には英国だけでなくヨーロッパ各地から大学院生や研究者たちが集まって 30 件前後のプロジェクトが同時進行で遂行されており、ヨーロッパにおけるデジタル・ヒューマニティーズの拠点となっている。

「ここには、いろいろな地域出身の研究者や学生が集まり、それぞれ多種多様なプロジェクトに携わっています。わからないことがあったら誰にでも気軽に相談できますし、情報交換も盛んです。」ドイツ出身のシニア・リサーチ・フェロー、ゲアハルト・ブレイ氏は CCH の魅力をそう説明した(写真 1)。たしかに、楽譜のデジタル校閲からアラビア語写本目録データベースまで CCH が扱うプロジェクトは多種多様だ。大勢のメンバーがシェアする広い研究室はとても見通しが良く、かなりオープンな雰囲気だ。フランス国立公文書学校から出向中のカミュー・デザンクロ客員研究員も作業の手を止めて、彼女が行っているアングロ＝サクソン時代公文書データベースのプロジェクトを快く解説してくれた(写真 2)。

学会や研究会並みの情報交換と議論をいつでも気軽にできる空間。CCH を訪問して、そんな印象を受けた。貴重書挿絵データベース開発をいっそう活性化するために日本に必要なのはこのようにいつでも情報交換と議論ができる常設の教育研究機関ではないだろうか(注 5)。

3. デジタル・ヒューマニティーズの国際学会—DH2010

デジタル・ヒューマニティーズ学会(略称 DH)は、人文社会系研究におけるデジタル技術の活用についての発表・議論を行う世界最大の国際学会のひとつである。日本の貴重書挿絵データベース開発者たちが DH のような国際学会で発表する際、あるいはこうした国際学会を日本で開催する際、どのような点

に気をつけるべきか。DH2010 の会場を回り、日本の貴重書挿絵データベース研究者が注意すべき点を観察した。

第一の注意点は、発表スタイルの違いである。DH は基本的に情報学系の発表スタイルを取っており、口頭発表者はパワーポイントと流暢な英語を駆使して短時間にできるだけ多くの情報を盛り込んだ発表・議論を行わなければならない（注 6）。日本の歴史系・文学系学会と異なり、ポスター発表が重要な位置を占めているのも大きな特徴のひとつだ（写真 3）。

第二の注意点は、マルチメディアの活用と環境整備である。パワーポイントのほか、発表者たちの多くはデモ用ノートパソコン、PDF 化したハンドアウト、ハンドアウトをダウンロードする URL の 3 点も用意していた。短時間で詳細な情報を提供するためのあらゆる工夫が発表者には求められるからだ。また、参加者たちは Twitter やブログを使って学会で得た知見を直ちに世界に向けて発信することにも熱心だ。したがって学会会場は当然ながら無線 LAN が無料利用できるようになっていた（写真 4）。日本で貴重書挿絵データベースの国際学会を開催する際にもこうした通信環境への配慮が必要となろう。

4. まとめ

議論・情報収集・国際学会発表の場を整備して日本における貴重書挿絵データベース開発を活性化するためには、CCH のような常設のデジタル・ヒューマニティーズ教育・研究機関を大学などに設置して研究者間の議論と情報交換を推進することが肝要である。また、開発者はデジタル・ヒューマニティーズの国際学会における独特の発表スタイルに慣れる必要があり、さらに日本でそうした国際学会を開催する際にはマルチメディアの活用を実現するための通信環境整備に配慮すべきである。

注

1. HUMIプロジェクト（2000）『Caesare Ripa, *Iconologia*』
http://www.humi.keio.ac.jp/matsuda/ripa/ripa_index.h

tml（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）、早稲田大学演劇博物館（2001）『演劇博物館浮世絵閲覧システム』<http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/enpakunishiki/>（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）、立命館大学（2002）『ARC浮世絵検索閲覧システム』<http://www.dh-jac.net/db/arcnishiki/default.htm>（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）、日本大学（2005）『Ovid's Metamorphoses』<http://ovidmeta.jp/search/p/index.php>（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）、『西鶴浮世草子全挿絵画像CD』（中嶋隆・篠原進（編）2006『西鶴と浮世草子研究』1, 笠間書院, 付録）、神奈川大学 21 世紀COEプログラム（2008）『東海道名所図会絵引きデータベース』<http://www.himoji.jp/database/db07/tokaido/>（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）、実業史研究情報センター（2009）『実業史錦絵索引』<http://ebiki.jp/>（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）、国際日本文化研究センター（2010）『怪異・妖怪画像データベース』<http://www.nichibun.ac.jp/YoukaiGazouMenu/>（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）などはそのごく一部の例である。

2. 人文科学とコンピュータ研究会（通称じんもんこん）は情報処理学会の SIG のひとつ。「デジタル・ヒューマニティーズ」はかつてよく「ヒューマニティーズ・コンピューティング」Humanities Computing とも呼ばれた。
3. Centre for Computing in the Humanities, King's College London, <http://www.kcl.ac.uk/schools/humanities/depts/cch/>（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）。Digital Humanities は <http://dh2010.cch.kcl.ac.uk/>（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO) が主催する国際学会。
4. Pliny: A Note Manager (2006) <http://pliny.cch.kcl.ac.uk/index.html>（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）は無料で利用できるアノテーション・ソフト。現在もバージョンアップが継続されている。
5. 日本にも立命館大学グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」があるが、これは期限付きのプログラムである。http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/guideline_j.html（最終閲覧 2010 年 7 月 30 日）。
6. フランス語やイタリア語などでの発表も認められているが、原則として発表は英語で行われる。

写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

